



報道関係各位

平素よりたいへんお世話になっております。

AMIT (Art, Media and I, Tokyo) 2016 の開催まで1ヶ月ほどとなりました。

本プレスリリースでは先にお伝えしました開催概要に加え、会期中のプログラムについてご案内いたします。

AMIT ならではの、丸の内でしか体験できないプログラムを企画しております。多くのみなさまにご参加いただけますよう、広く告知いただければと存じます。

ウェブサイトも開催に向けてリニューアルいたしました。あわせてご高覧いただきたく、どうぞよろしく願いたします。

【AMIT2016 プログラム概要】

日時： 2月28日（日）11:00-21:00

会場： 丸ビル 1F マルキューブ（東京都千代田区丸の内2丁目4-1）

[ワークショップ]

11:00~12:30

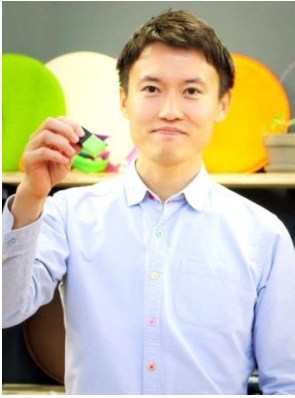
「AMIT2016 × MESH（ソニー）カナデルエキシビション～MESHで奏でるワークショップ」

ファシリテーター：萩原丈博（ソニー株式会社）、加治洋紀・小林椋・原淳之助（アーティスト）

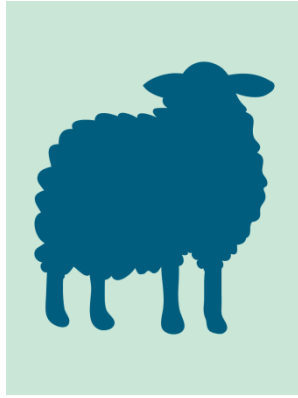
グッドデザイン・ベスト100/未来づくりデザイン賞受賞、「Innovative Technologies 2015」（経済産業省）採択などで話題のクリエイティブなスマートDIYキット「MESH」（Make, Experience, Share）。自由な発想で楽しいおもちゃや、スマートホームを実現するデバイスなどさまざまなものを気軽につくれます。誰もが発明家になれる、みんなが楽しむことできる、そんな時代の可能性を探るワークショップです。MESHプロジェクトリーダーの萩原丈博と、気鋭の新進メディアアーティストがファシリテーターとなり、MESHを使った電子工作を行います。

今回は音をテーマに、街を楽しく変身させるワークショップになる予定です。ワークショップで制作した作品は会場に展示し、来場者が自由に触ったり、遊んだりしていただけるようにします。いつもの丸ビルにちょっと不思議な魔法をかける、楽しいワークショップです。

MESH についての詳細はこちら <http://meshprj.com/jp/>



荻原丈博



加治洋紀



小林椋



原淳之助

[トークセッション&プレゼンテーション]

13:00~16:30

■トークセッション1

13:00~14:00 「都市と祝祭 アートフェスティバルの未来」

登壇者：石田尚志（あいちトリエンナーレ 2016 参加作家／多摩美術大学准教授）、港千尋（あいちトリエンナーレ 2016 芸術監督／写真家／著述家）

モデレーター：四方幸子（AMIT2016 ディレクター／メディアアートキュレーター）

世界中でアートフェスティバルは増加しています。日本では観光と結びつけて成功した瀬戸内芸術祭が有名ですが、近年はあいちトリエンナーレや札幌国際芸術祭のような都市型のアートフェスティバルも増加しています。コミュニティとしての機能が衰退している都市において、アートフェスティバルはどのような役割を果たすのか、芸術文化の創造性と都市や地域の資源を結びつけるアートフェスティバルは、21世紀の「市民」を育てることができるのか。都市と祝祭をテーマに、アートフェスティバルの未来を、あいちトリエンナーレ 2016 の参加作家と芸術監督と共に考えます。



石田尚志



港千尋



四方幸子

■プレゼンテーション

14:15~14:45 「デジタルネイチャーが拓く未来の都市」

登壇者：落合陽一（筑波大学助教 デジタルネイチャー研究室主宰／AMIT2016 参加アーティスト）

実業家、研究者、メディアアーティスト、とさまざまな肩書きを持ち、『現代の魔法使い』として今最も注目を集める落合陽一。シャボン玉の膜をディスプレイに映像を投影したり、音響浮揚を使った指向性スピーカーで物体を浮遊させたり、レーザー光でプラズマを発生させて指先に絵を表示

させるなど、科学技術を駆使しながら、実空間でこれまでにない世界を生み出しています。落合陽一が考える「未来の形」をプレゼンテーションいただきます。
なお、会場ではシャボン玉の膜をつかった作品《コロイドディスプレイ》を展示予定です。



落合陽一

■トークセッション2

15:00~16:30 「テクノロジーアート&デジタルファブリケーションの現在」

登壇者：セドリック・ユシェ（Festival Scopitone ディレクター）、田中浩也（慶應義塾大学情報環境学部准教授／ファブラボ鎌倉主催）、yang02（AMIT2016 参加アーティスト）、関口敦仁（愛知県立芸術大学教授／美術作家）

ドローンやVRディスプレイ、ロボットや人工知能など、最先端のテクノロジーが身近になった今、アートの世界にもこれまでは考えられなかったような作品が登場してきています。さらにデジタルファブリケーションの浸透で、誰でもが気軽に自分のクリエイティビティを形にすることができるようになりました。アートとテクノロジー、クリエイターとユーザーなどの垣根が取り払われつつある現在、テクノロジーアートの最前線では何が起きているのか、またデジタルファブリケーションは市民にどんな未来を提供するのか。研究者、企業の開発者、アーティスト、ディレクターなど、テクノロジーアートとデジタルファブリケーションの第一人者たちがあつまり、これからのアートとものづくりについて語り合います。



セドリック・ユシェ



田中浩也



yang02 (やんツー)



関口敦仁

[ライブ・パフォーマンス]
19:00~20:00 「丸の内アンビエント」
出演：蓮沼執太（音楽家／作曲家）

国内外で注目される気鋭の音楽家・蓮沼執太が、2月発売が予定されているソニー株式会社の「グラスサウンドスピーカー」を使ったスペシャルライブを行います。有機ガラス管が振動することで管全体が円筒状の音源となり、質感描写にすぐれた音色を奏でるといふ新しい発想のスピーカーによって、360度の臨場感に満ちた音で空間を満たし、会場全体を共振させるような新しい音楽体験になるでしょう。放つ光も美しいスピーカーとの一夜だけの共演をお楽しみください。



[エキシビション]

11:00~21:00

- 石田尚志 《Die Kunst der Fuge (The Art of Fugue)》
- 落合陽一 《コロイドディスプレイ》
- yang02 (やんツー)+ 石毛健太 《カーゴ・カルト》
- 加治洋紀・小林椋・原淳之助 《AMIT2016 × MESH (ソニー)》



落合陽一 《コロイドディスプレイ》



yang02 (やんツー)+ 石毛健太 《カーゴ・カルト》



小林椋 《蚊帳を埋める》※参考作品

登壇者、出品作家のプロフィールなど詳細はこちら <http://amit.jp/>

AMIT 2016 開催概要

日程：2016年2月28日（日）

時間：11:00～21:00

会場：丸ビル 1F マルキューブ（東京都千代田区丸の内2丁目4-1）

出品作家／登壇者（五十音順）：

石田尚志（あいちトリエンナーレ2016 参加作家／多摩美術大学准教授）

落合陽一（筑波大学助教 デジタルネイチャー研究室主宰／AMIT2016 参加アーティスト）

四方幸子（AMIT2016 ディレクター／メディアアートキュレーター）

関口敦仁（愛知県立芸術大学教授／美術作家）

セドリック・ユシェ（Festival Scopitone ディレクター）

田中浩也（慶應義塾大学情報環境学部准教授／ファブラボ鎌倉主宰）

蓮沼執太（音楽家／作曲家）

港千尋（あいちトリエンナーレ2016 芸術監督／写真家／著述家）

yang02（やんツー）（AMIT2016 参加アーティスト）

入場料：無料

主催：AMIT 実行委員会

共催：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）※一部共催（予定）

あいちトリエンナーレ実行委員会

特別協力：三菱地所株式会社

協力：アンスティチュ・フランセ東京

株式会社ゴーズ

ソニー株式会社

フェスティバル「デジタル・ショック」

Festival Scopitone

後援：千代田区（予定）

ディレクター：四方幸子（メディアアート・キュレーター）

※前回リリースでお伝えしておりましたオープングレセプションはなくなりました。

本リリースに関するお問い合わせ

AMIT 実行委員会事務局広報担当 市川

press@amit.jp